

熱中症予防について

校長 鈴木 雄詞

いよいよ7月になり、熱中症予防に気を配る季節になりました。

学校では、子どもたちが熱中症にならないように、いくつかの基準を設けて学習や活動をしています。「晴れているのにプールに入れない。運動場で遊べない。」ということが今後増えてくると思われますので、基準となる「暑さ指数 (WBGT)」についてお話します。

暑さ指数 (WBGT (湿球黒球温度): Wet Bulb Globe Temperature) は、熱中症を予防することを目的として1954年にアメリカで提案された指標です。単位は気温と同じ摂氏度 (°C) で示されますが、その値は気温とは異なります。暑さ指数 (WBGT) は人体と外気との熱のやりとり (熱収支) に着目した指標で、人体の熱収支に与える影響の大きい ①湿度、②日射・輻射 (ふくしゃ) など周辺の熱環境、③気温の3つを取り入れた指標です。

※環境省ホームページより抜粋

多治見市の小中学校では、以下のような基準をもとに学校ごとに判断していきます。

WBGTが33°C以上 (熱中症警戒アラート) …運動・屋外活動は中止

WBGTが33°C以上の場合は、下校を見合わせることもあります。その際は、数値が低くなるのを待ってから下校させる (最長留め置きは17時) ことや、保護者による引き取りを行うこともあり得ますのでご承知おきください。

プールにおいては、体温に近い水の中で体を動かすと、水の中でも体温が上昇し、熱中症になるリスクが高まります。补水しても水温が下がらない場合は、晴れていても中止することがあります。

その他の学校生活や登下校において、日常的にこまめな水分補給、帽子の着用、日傘・冷却タオルの使用、室内エアコンの使用、日課の調整等を行いながら、毎日の気象状況の変化にも臨機応変に対応していきたいと思えます。暑い夏がやってきます。ご家庭におかれましても、自分でできる熱中症対策についてお子さんとお話していただけると幸いです。



↑ 1年生「交通安全教室」の様子

学校の様子はホームページからもご覧いただけます。→

